

厚生労働科学研究費補助金
(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業
(免疫アレルギー疾患政策研究分野))
分担研究報告書

国内で実施された成人喘息・アレルギー性鼻炎疫学調査のデータベース化に関する研究

研究分担者 成人喘息・アレルギー性鼻炎 調査グループ
谷口正実 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター長
今野 哲 北海道大学大学院 医学研究科 内科学講座 呼吸器内科学分野 講師
岡田千春 国立病院機構本部 医療部 病院支援部長
大久保公裕 日本医科大学付属病院 大学院教授
福富友馬 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室長

研究協力者

谷本 安 国立病院機構南岡山医療センター 統括診療部長
赤澤 晃 東京都立小児総合医療センター アレルギー科 部長
大村 葉 東京都立小児総合医療センター アレルギー科

研究要旨

これまでに我が国で行われてきた成人喘息、アレルギー性鼻炎の疫学研究のデータベースを作成することが、本研究の目的である。成人喘息、アレルギー性鼻炎それぞれに関して、PubMedと医中誌を用いて Mesh やシソーラスを用いて対象文献をスクリーニングし、その後その文献一つ一つをレビューすることにより、データベース掲載にふさわしい報告を抽出した。さらに、我が国の診療ガイドラインや疫学の重要文献の引用文献をレビューし、今回の検索で漏れていた論文や報告をいくつかデータベースに追加した。最終的なデータベースには成人喘息に関しては 14 件、成人アレルギー性鼻炎に関しては 18 件の文献を登録した。

A. 研究目的

これまでに我が国で行われてきた成人喘息、アレルギー性鼻炎の疫学研究のデータベースを作成することが、本研究の目的である。

B. 研究方法

成人喘息、アレルギー性鼻炎それぞれに関して、PubMedと医中誌を用いて Mesh やシソーラスを用いて対象文献をスクリーニングし、その後その文献一つ一つをレビューすることにより、デ

ータベース掲載にふさわしい報告を抽出した。文献レビュー時はまずは抄録の記載から適格報告をスクリーニングし、文献取り寄せ後内容を吟味し、データベース掲載にふさわしいもののみを採用した。さらに、我が国の診療ガイドラインや疫学の重要文献の引用文献をレビューし、今回の検索で漏れていた論文や報告をいくつかデータベースに追加した。

(倫理面への配慮)

該当なし

C. 研究結果

1. 成人喘息：英語論文

PubMed を用いて "Asthma/epidemiology" [Mesh] AND japan の検索ワードで検索したのち、Age を Adolescent: 13-18 years と Adult: 19+ years、言語を English として絞り込みを行ったところ 180 件の検索結果が得られた（資料集；成人 BA 参照）。それらの文献のレビューによりデータベース掲載にふさわしい文献として 4 件を得た。

2. 成人喘息：日本語論文、報告

医中誌を用いて（喘息/TH） and （SH=疫学）の検索ワードで検索したのち、抄録あり、会議録もしくは原著論文、（CK=成人（19～44）、中年（45～64）、高齢者（65～））の条件で対象を絞り込みしたところ 69 件の検索結果が得られた（資料集：成人 BA 参照）。それらの文献・報告のレビューの後、データベース掲載にふさわしい日本語論文、報告を 5 件を得た。

3. 成人喘息データベース作成

上記 1, 2 で得られた 9 件に、診療ガイドライン・重要文献の引用文献の検索から得られた 5 件の日本語文献を追加し、最終的に 14 件をデータベースに掲載した。

4. 成人鼻炎：英語論文

PubMed を用いて "Rhinitis/epidemiology" [Mesh] AND Japan で検索し、その後、Age を Adolescent: 13-18 years と Adult: 19+ years、言語を English として絞り込みしたところ 64 件の結果を得た（資料集：成人 AR 参照）。その後、それらの文献のレビューによりデータベース掲載に適切な文献として 6 件を得た。

5. 成人鼻炎：日本語論文

医中誌を用いて（鼻炎/TH） and （SH=疫学）で検索し、抄録あり、会議録もしくは原著論文、（CK=成人（19～44）、中年（45～64）、高齢者（65～））、の条件で絞り込みを行ったところ 44 件の文献・報告を得た（資料集：成人 AR 参照）。その後それらの文献のレビューによりデータベース掲載にふさわしい文献・報告、7 件を得た。

6. 成人鼻炎データベース作成

上記 4, 5 で得られた 13 件に、診療ガイドライン・重要文献の引用文献の検索から得られた 5 件の日本語文献を追加し、最終的に 18 件をデータベースに掲載した。

D. 考察

行政や自治体などが主体で行われた疫学調査などに関しては、論文報告されていないものが多く、医中誌などでは検索対象となっていないことに留意する必要がある。また、古い疫学調査では公的研究班の報告書にのみしかその結果が掲載されていないものも多く、今回の検討ではそれらのすべての内容を吟味することは困難であった。

E. 結論

成人喘息とアレルギー性鼻炎の疫学調査結果のデータベース化を行った。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 谷口 正実：重症喘息の対応. The 35th ROKKO CONFERENCE. 2016. 3; 2015.
- 2) Watanabe T, Fukutomi Y, Taniguchi M, Akasawa A, Nishimura M. et al : Association between Smoking Status and

- Obesity in a Nationwide Survey of Japanese Adults. PLoS One. 2016 Mar; 11(3): e0148926.
- 3) Mitsui C, Fukutomi Y, Taniguchi M et al : Platelet activation markers overexpressed specifically in patients with aspirin-exacerbated respiratory disease. J Allergy Clin Immunol. 2016 Feb; 137(2): 400-411.
 - 4) 谷口 正実: 11 気管支喘息 抗 IgE 抗体療法が有効な背景は? . EBM 呼吸器疾患の治療 2016-2017. 2016. 1: 55-57.
 - 5) Tanimoto H, Fukutomi Y, Taniguchi M. et al : Molecular-based allergy diagnosis of allergic bronchopulmonary aspergillosis in Aspergillus fumigatus-sensitized Japanese patients. Clin Exp Allergy. 2015 Dec; 45(12): 1790-800.
 - 6) Hayashi H, Fukutomi Y, Taniguchi M et al : Omalizumab reduces cysteinyl leukotriene and 9 ,11 -prostaglandin F2 overproduction in aspirin-exacerbated respiratory disease. J Allergy Clin Immunol. 2016 May;137(5):1585-1587.
 - 7) Yamaguchi T, Ishii T, Taniguchi M, et al : Differences in urinary leukotriene E4 levels and distribution of eosinophils between chronic rhinosinusitis patients with aspirin-intolerant and -tolerant asthma. Auris Nasus Larynx. 2015 Oct; 43(3): 304-8.
 - 8) 福富 友馬, 谷口 正実: 成人喘息の疫学と危険因子 最近の動向. アレルギーの臨床. 2015. 10; 35 (11) : 1027-1030.
 - 9) 谷口 正実, 福富 友馬: あなたのまわりに潜む身近なアレルゲン—原因を特定して対処する—。あなたのまわりに潜む身近なアレルゲン. 2015. 5.
 - 10) 谷口 正実: 4 アレルギー性疾患 A 気管支喘息. 新呼吸器専門医テキスト. 2015. 4: 339-346.
 - 11) Kimura H, Konno S, Isada A, Maeda Y, Musashi M, Nishimura M : Contrasting associations of body mass index and measles with asthma and rhinitis in young adults. Allergy Asthma Proc 2015 36(4):293-9
 - 12) Konno S, Taniguchi N, Makita H, Nakamaru Y, Shimizu K, Shijubo N, Fuke S, Takeyabu K, Oguri M, Kimura H, Maeda Y, Suzuki M, Nagai K, Ito YM, Wenzel SE, Nishimura M: Distinct Phenotypes of Cigarette Smokers Identified by Cluster Analysis of Patients with Severe Asthma. Ann Am Thorac Soc 2015 Dec;12(12):1771-80
 - 13) 伊佐田 朗, 今野 哲, 服部健史, 清水 薫子, 清水健一, 谷口菜津子, 檜澤伸之, 西村正治: 各種感染症抗体価の年齢別陽性率、及びアトピー素因、気管支喘息、アレルギー性鼻炎との関連. 職業・環境アレルギー誌 2015 22(2): 65 -72
- ## 2. 学会発表
- 1) 谷口 正実: アレルギー総論・成人の喘息・アレルギー性鼻炎の診断・治療と患者教育. 平成 27 年度リウマチ・アレルギー談員養成研修会, 2015. 12, 東京都 (教育講演)
 - 2) 福富 友馬: 成人アレルギー疾患の修飾因子. 第 2 回総合アレルギー講習会, 2015. 12, 横浜市 (講演)
 - 3) Tsuburai T, Taniguchi M. et al : FOT の意義と限界 ~ 喘息の観点から ~ Roles and Limitations of the Forced Oscillation Technique(FOT) in Asthma The 25th

Congress of Interasma Japan / North Asia,
2015 Sep, Yokohama, (シンポジウム)

- 4) 谷口 正実: EBM にはない成人アレルギー学.
第 9 回相模原臨床アレルギーセミナー, 2015.
8, 横浜市 (講演)
- 5) 関谷 潔史, 福富 友馬, 谷口 正実, 田中 裕
士: 成人喘息大発作の背景、当院および全国
前向き多施設研究から. 第 75 回臨床アレルギー
研究会, 2015. 6, 東京都 (講演)
- 6) 福富 友馬: 日本人成人における肥満と喘
息・鼻炎の関係: 疫学的エビデンス. 第 75 回
臨床アレルギー研究会, 2015. 6, 東京都 (特
別報告)
- 7) 渡井 健太郎, 福富 友馬, 谷口 正実 他: 成
人喘息の疫学・症状 若年発症喘息における短
期喫煙が呼吸機能・気道過敏性に及ぼす影響.
第 64 回日本アレルギー学会, 2015. 5, 東京都
(一般演題)
- 8) 関谷 潔史, 谷口 正実, 福富 友馬 他: 喘息
大発作入院症例における退院後の通院状況に
関する検討. 第 64 回日本アレルギー学会学術
大会, 2015. 5, 東京都 (一般演題)
- 9) 関谷 潔史, 谷口 正実, 福富 友馬 他: 遷延
性及び慢性咳嗽で受診した若年者における境
界域 FeNO 症例の検討. 第 55 回日本呼吸器学
会学術講演会, 2015. 4, 東京都 (一般演題)
- 10) 渡井 健太郎, 谷口 正実, 福富 友馬 他: 禁
煙に対する取り組み 若年発症喘息における
短期喫煙が呼吸機能へ及ぼす影響. 第 55 回日
本呼吸器学会学術講演会, 2015. 4, 東京都
(一般演題)
- 11) Kimura H, Konno S, Nakamaru Y, Makita
H, Taniguchi N, Shimizu K, Suzuki M,
Nishimura M: Sinus Computed
Tomographic Findings in Asthmatics:
Comparison between Mild-to-moderate and
Severe Asthma and Associations with
Asthma-related Indices. The 110th
American Thoracic Society International

Conference. 2015 May 米国 Denver (一
般演題)

- 12) 木村孔一, 今野哲, 中丸裕爾, 牧田比呂仁,
谷口菜津子, 清水薫子, 鈴木雅, 西村正治. 喘
息患者における副鼻腔 CT 所見とその関連因
子. 第 64 回日本アレルギー学会学術大会
2015 年 5 月, 東京 (一般演題)
- 13) 今野 哲. 難治性喘息からみた気管支喘息と
COPD のオーバーラップ病態の考察. 第 64
回日本アレルギー学会学術大会 2015 年 5 月
東京 (一般演題)
- 14) 今野 哲. フェノタイプに基づく難治性喘息
の治療戦略. 第 64 回日本アレルギー学会学術
大会 2015 年 5 月, 東京 (一般演題)

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定も含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし